

発行所
日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15
TEL 022-223-2349
FAX 022-223-2387
URL <http://nssk-tohoku.com/>

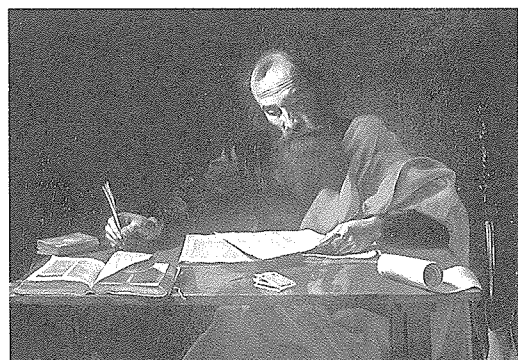
シリーズ「東北の信徒への手紙」
「想いを込めた
手紙に秘められた力……」
司祭 ピリポ 越山 健蔵



主キリス
ト・イエス
からの恵み、
隣み、そし

て平和があるように
テモテへの手紙一 1・2
新型コロナウイルスの感染
で自粛が続き、礼拝が制限さ
れ、3月までの日常的な普通
の信徒の交わりが、閉ざされ
てから早2ヶ月が経過してい
ます。改めて礼拝に参加し、
聖餐に与ることが生きる糧、
生きる力となっていたことを、
思い返されています。
人はやはり聖書にある創世
記の始めより一人では生きら
れない弱い生物だと、今回の
自粛で感じています。
人生の大半顔を合わせて、
お互いに安否を問い、声を掛
け合い、励まし合い、訪ね合
う……ことが出来ない現実と
向き合っているある青年のこ
とを紹介いたします。

事件を起こして刑期服役中
の青年と20年近く文通を続け
ています。毎月一度の定期便
です。困いの外の人と会える
のは、限られた数人の方々、
それも年に一度あるかないか
です。彼の唯一の慰めは想い
を込めた手紙を出し、現代の
ラインのようにタイムリーに
は程遠い時間をかけた応答の
手紙です。僕が希望を見失わ
ず生きることが出来るのは一
通の手紙ですと告白していま
す。その手紙は毎回、体調は
どうですか、風邪は治りまし
たか……毎回自分のことを話
す前に必ず相手の安否を心配
しての長い書き出しから始ま
ります。
聖書に目を転じるとパウロ
は毎週共に礼拝が献げられな
いため、各教会に手紙を出し
ました。信徒への励まし・慰
めに溢れた手紙の冒頭には必
ず「主イエス・キリストの恵



手紙を書く聖パウロ

みと平和があなたの方にありま
すように」の書き出しで始ま
ります。私たちキリスト者は
パウロに倣い手紙の頭に主の
平和がありますようにと記し
ます。そしてお元気ですか、
お変わりありませんかと続け
ます。
以前教会の交わりから離れ
たある信徒の方から返信の手
紙をいただきました。その中
で、司祭さんから、毎回送ら
れてきた週報にたった一行ペ
ン書きでお元気ですかと書か
れていたのが目に留まり、ど
れほど勇気づけられ、離れて
いても司祭は私のことを覚え
て折ってくれていると気づき、
教会にまた復帰したいことが

しみじみと書かれていました。
今自粛で礼拝堂にて共に主
日の聖餐に与ることは叶いま
せんが、信徒の出席が得られ
なくとも牧師は毎日信徒一人
一人を覚えて礼拝を献げてい
ます。祈りは必ず聴かれると
確信しています。ナザレ修道
院では、毎朝毎夕、病にある
人、苦しみにある人の為にそ
の人に想いを巡らしながら、
お一人お一人の名前を挙げて
祈りを献げております。
105歳でこの世を去られた
八千代修女さんの言葉を思い
だしています。司祭さんの一
番の仕事は祈ることよ！祈り
は必ず聴かれるのよ！がん
ばって！
こんな時にこそ、主イエス
キリストの恵み・隣み、そし
て平和がありますように。
主に在って
(仙台基督教会 囑託)

訃報
司祭アントニオ影山
博美師は、5月20日逝
去されました。同師の
魂の平安をお祈りいた
します。

東北教区の信徒の皆さんへ

散らされ、呼び集められる神の民

人 雅 田 吉 八 ヨ 主教

東北教区の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。主にある平安をお祈りいたします。1月半ばに日本国内での感染者が初めて確認されて以来、全国的に新型コロナウイルスが猛威をふるっています。東北地方でも5

月15日現在で

罹患された方

が281人、

入院・療養中

の方が46人お

られます。様々

な不安の中で

過ごしておら

れる方々の上

に、神様の癒

しと慰めが豊

かにあります

ようお祈りい

たします。

このような

状況を受けて、

3月29日の主

日から「私たちが一堂に会し

て公開で礼拝をお献げするこ

とを休止する」という苦渋の

決断をし、現在ではそれを5

月30日まで延長することに

いたしました。

結果として、聖週礼拝や受

苦日礼拝を通して主の御受難を黙想し、復活日礼拝や復活節中の礼拝を通して死に打ち勝たれたイエス・キリストを賛美し、感謝する礼拝を一緒に献げることができないという、前代未聞の経験をする事になりました。

◇御心はどこに？◇

「一堂に会しての礼拝が休止され、主日礼拝に出席できない」空虚さ、聖品(聖別されたパンとぶどう酒)にあずかれないことへの満たされなれない思い。それが今、私たちの心の中を覆っています。しかし、このような状況下だからこそ、私たちは「何が神の御心であるか(ロマ12:2)」、「神は私たちに何を語っておられるのか」について、思い巡らせるよい機会にできるのではないでしようか。

◇集められた民◇

教会にとつて、この「一堂に会する、共に集まる」ということは、とても大切な要素です。と言いますのは、「教会」のことを新約聖書では「エクレシヤ」という言葉で表しています。この「エクレシヤ」という言葉は、「くから

を意味する「エク」という語と、「呼ぶ」を意味する「カレオー」という動詞から成っています。つまり、「(神様)からのお呼び」に応えた、「呼び出されたものの集まり」を指し示しているのです。

聖餐式の最初の部分には

「参人」という小見出しがつ

いています。多くの教会では

聖歌を歌いますが、参人唱と

呼ばれる教会暦にふさわしい

詩編句や聖句を用いることも

できます。この時、私たちは

すでに聖堂の中におりますが、

イメージとしては「神様に呼

び集められた民」として、十

字架を先頭に入室するという

感じでしょう。

そして呼び集められた神の

民は、共に神様の御言葉を聴

き、聖餐によつて養われます。

私たちが主日に「一堂に会し、

共に集まって礼拝を献げる」

ことは、まさに「エクレシ

ヤ」としての教会」を表してい

ると言えるでしょう。

◇散らされた民◇

この呼び集められた神の民は聖餐式の最後に祝福を受け、「ハレルヤ、主とともに行きましょう」「ハレルヤ、主のみ名によつて アーメン」と唱和して、各々の生活の場に派遣されていきます。このように派遣される私たちキリスト者を、ペトロの手紙「は」各地に離散して仮住まいをしている選ばれた人たち(1:1)と呼んでいます。

このことからキリスト者の

特徴は、神の恵みによつて呼

び出され、神の計画達成のため

に苦難にあずかるよう「選ば

れた民」であるということ

です。第二の特徴は、キリス

ト者はこの世では定住すべき

家を持たない「仮住まい」の

身であり、真の故郷(わたした

ちの国籍は天にある)に向

かう旅人だという点です。そ

してその旅とはキリストの苦

難に参与する旅なのです。第

三の特徴は「離散している

(ディアスポラ)」ということ

です。「ディアスポラ」とは、

もともとパレスチナ以外の地

域に散らされて生活していた

ユダヤ人を指しましたが、仮

住まいで旅する民としてのキ

リスト者の性格を表すように

もなりました。

このように神様に選ばれ呼

び出された民であるキリスト

者(エクレシヤ)は、同時に寄留の地であるこの世に散らされている民(ディアスポラ)でもあります。それはまさに毎週の聖餐式が「呼び集められる参人」で始まり、御言葉と聖餐で養われ、「この世に散らされる派遣」で終わることに表されているのです。

◇呼び集められるまで

この世で何を◇

最初の問に戻りましょう。このような状況の中で「神は私たちに何を語っておられるのか」「散らされている間、私たちはこの世で何をすれば？ 真の故郷に向かう旅の途上で、キリストの苦難に参与するとは？」答は一つではないでしょうが、「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。(ヨハネ15:5)」という聖句がそのヒントになるように思います。「人をイエス様に繋ぐお手伝いをするために仕える」こと。それが「隣人を自分のように愛しなさい」と命じられた、散らされ・集められる私たちの務めの一つではないでしようか。

家庭での主日礼拝の守り方について

新型コロナウイルス感染症

拡大防止のために、礼拝の公開が休止されてから、想定したよりも長い時間が経過してしまいました。緊急事態宣言の期間が延長され、5月の連休明けには礼拝公開を再開の予定だった東北教区も再開予定を延長しました。今号がお手元に届く頃には、教会に集えるようになってきていることを願っています。

そうなった場合でも、諸事情で教会に行くことができない時にも役立てていただけたらと考え、「家庭での礼拝も持ち方について」を掲載させていただきます。各教会で創意工夫されている所もあると思いますが、参考にしていただけたら幸いです。

教区主教より各教会に配布されています「新型コロナウイルス感染症拡大に伴うご注意」の中に掲載されています「各家庭における「主日礼拝の守り方」を、再掲させていただきます。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴うご注意No.4より

信徒の皆さんは、所属教会の主日礼拝の時間になりましたら、教会で礼拝を守っておられる教役者と心を合わせて、ご自宅で祈りをお勧めください。その場合、祈祷書と聖書をご準備の上、以下のような方法をお勧めいたします。

*主日の祈りは、場所は違えども同じ時間に祈る、教会、兄弟姉妹が共に祈っていることを覚えながら、一つになつて祈ることに大きな意味があると思います。

- ① 定時になったら「父と子と聖霊のみ名によって アーメン」と唱える。
- ② 「主の祈り」を唱える。
- ③ その主日の「特禱」を唱える。
- ④ その主日の「福音書」を朗読し、しばらく沈黙する。
- ⑤ 個人の祈りや代禱を祈る。

*代禱は管区と教区のホームページを参照できますが、それができない場合でも、自分で祈りたいことを見つけることも大事です。すでに皆様の手元にも届いていることと思いますが、管区より配布されている「み国が来ますように」のパンフレットにも示されているように「他者のために祈る」ことこそが代禱の根幹です。世界の人々のため、そして身近な人々のために、どんな祈りが求められているのか、心を開いていきましょう。

⑥ 祈祷書137ページの「家族の朝の祈り」を唱える。

この主日礼拝の守り方は、この度の事態に対処するために吉田教区主教がお作りくださいましたが、様々な事由で教会の主日礼拝に集えない方は、今までもおられました。礼拝堂に共に集うことが叶わない時にも、同じ時に心を合わせて祈ることができる祈りの形として、今後整えられていかなければならないのかも知れません。

「教会」という言葉は、単にその建物を示すだけのものではなく、「イエス・キリストにあって神に生きるすべての人の集まり」と祈祷書の教会問答1の答えにも示されています。新約聖書で「教会」と訳されている「エクレシヤ」という言葉にも、組織として、建物としての教会という意味だけでなく、キリストのみ名による神の民の集いという意味があります。集うことは同じ場所にいることができれば一番ですが、たとえ離れていても、時を同じくして祈りを共にする姿の中にも、神の「教会・エクレシヤ」は存在すると私は信じています。

また、私たちの教会、聖公会は礼拝や信仰生活の中で、それを象徴する「形」も大事にしてきた教会です。もちろん十字架がなければ教会でなくなるわけではないし、祭服を身に着けない司祭は聖餐を執行できないわけではあります。しかし教会の祈りの中から生まれてきた信仰をあらわす形、神への愛敬、畏怖を表す形は大事なものだと思えます。家庭で祈る時には、聖書と祈祷書があれば十分です

が、祈る場所、家庭祭壇などあれば落ち着くのではないのでしょうか。神棚や仏壇のように高価なものである必要はありません。伝統的には「東面」といって、礼拝堂も家庭の祭壇も東に置くという習慣があります。東であることに意味があり、東でなければならぬということではありません。十字架ひとつ、場所がある程度確保できて危険がなければ、主日の祈りの時には、ろうそくを灯すのも良いでしょう。

主の日に共に集うことが叶わぬ時も、時を同じくして祈る時間は、祝福された時であると思います。

(奉仕職養成グループ
司祭 涌井康福)

永遠の平安

マルタ 伊藤 仙

(4月21日・弘前)

マリア 船木 テル

(5月2日・秋田)

ヨハンナ 木名瀬 喜代子

(5月3日・仙台)

わたしの道の光

入信のきつかけと どもに行きましよう

弘前昇天教会
ソフィア 佐藤 憲子



私の実家は両親共々昔から仏教としての環境であった。

しかし幼稚園の頃は野辺地のカトリック幼稚園に遊びに行ったり、小学校の時は父の転勤で青森に移り妹がアルパイン幼稚園に通っていたので日曜学校について行ったりしていた。がその後は特にキリスト教との関わりが無く過ごしていた。それが突然53年前の1967年1月4日、私の親戚を通じて一人の男性を紹介された。両方の親も同席。佐藤の家はクリスマスチャンであることを初めて知った。が私の両親も私もさほどそのことに関しては違和感を持つことは無かった。というよりキリスト教に関しての深い知識も理解も持ち得ていなかったとい

う方が正しいかもしれない。それよりも当時私は千葉県市川市で音楽教師をしていたので、中・高の生徒、仲間、友人たちとお別れしなければならぬのかもしれないという思いの方が強く、随分悩みました。親友、妹等に相談を重ね、結局は夏休みで退職することに決意し帰青。待つてましたとばかり日曜日毎に佐藤の父は弘前から車で私を迎えに来てアングレ教会の礼拝へ出席し始めました。(させられた?)

私のお母さん、妹、信者さん方の温かい見守りの中「ソフィア」と呼ばれた時はもう一人の自分に対してこれからどう対していけばいいのだろうと緊張と不安で足がすくむような思いでした。眞は安心感の様な笑みを浮かべていましたが。ソフィアの名は姑マリア信子の母ソフィア前川けんからいただいたと教えられた。母は私に着物を着せてくれ、父は私より緊張の面持ちで涙を浮かべていた。その10日後の10月18日弘前昇天教会で中村主祭様、アタナシオ笹森伸児司祭様のもと聖婚式を迎えた。フラワーガールの幼き笹森田鶴ちゃん(現マリア・グレイス司祭)、美砂ちゃん姉妹の何とも可愛い姿、義父の手作りのバラのブーケを渡された時、初めて安堵感に浸れた。その後の53年間、いろいろな事有る毎に主祭様、司祭様方のお言葉がどれだけ頼りになり、次への糧となったことでしょう。3人の子どもたち、長男の嫁、3人の孫も受洗出来、共に繋がっていくことを願わずにはいられない。「ハレルヤ どもに行きましよう」大好きな言葉です。

常置委員会報告 4/29 開催

■報告事項

会議休止に伴い当面の期間の教区内諸会議等のウェブ会議開催の可能性について教区主教と協議。

教区事務所執務室拡張工事終了、教区事務所勤務態勢の変更等について報告。

■協議事項

新型コロナウイルス感染拡大に伴う教区の対応について

現時点で公開の礼拝と移動を伴う教区内の諸活動及び各教会における教会委員会や教区行事については5月30日(土)迄の休止を決議。

各教会の財政状況について

各教会の活動休止期間中の財政状況を把握した上で、教区として何らかの対策が必要となれば協議していくことを確認。

お詫びと訂正

5月号3面「常置委員会報告」の開催日に誤りがありました。正しくは3月26日です。お詫びして訂正いたします。

6月7日は「地球環境のために祈る日」です。環境破壊

の被害に苦しむ方々を覚えてお祈りください。

6月21日～27日は「沖縄週間」です。沖縄の現実を思いを寄せ、主の平和を求め、お祈りください。

6月逝去者記念聖餐式

6月9日(火)午前10時
於 主教座聖堂
司式 吉田 雅人 主教
説教 (調整中)

宣教師 Miss Marian Humphreys

1968年6月1日逝去

司祭 山縣雄杜三

1941年6月2日逝去

司祭 曾根 精

1929年6月6日逝去

Sr. Mariya Margaret

1994年6月6日逝去

司祭 テモテ中山 眞

2019年6月8日逝去

司祭 ダビデ横田 豊

2004年6月19日逝去

司祭 パウロ山崎 正雄

1998年6月25日逝去

伝道師 桑野 倭

1936年6月29日逝去

司祭 ペテロ宅間 信基

1984年6月30日逝去

伝道師 ルツ小笠原あい

2001年6月30日逝去